



Wilhelm・Conrad・Röntgen
ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン
1895年 X線発見

☆ご自由にお持ちください☆

放射線だより

2023年9月
No.8 (隔月発行)
担当：馬場俊明

from Radiation House

核医学検査装置が更新されました

最新のCT搭載SPECT装置が新たに導入されました。CTが搭載されたことにより核医学画像とCT画像を融合させることができるようになり、病変部がどこなのか正確な診断ができるようになります。

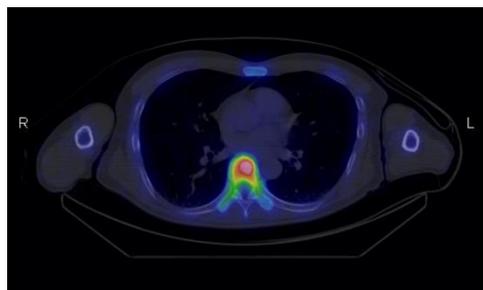
放射性医薬品がどこにどれだけ集積しているのかが視覚的によくわかるようになりました。



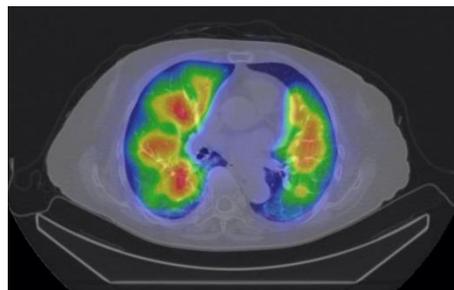
GE社製NM/CT870DR



骨シンチ



骨シンチ



肺血流シンチ

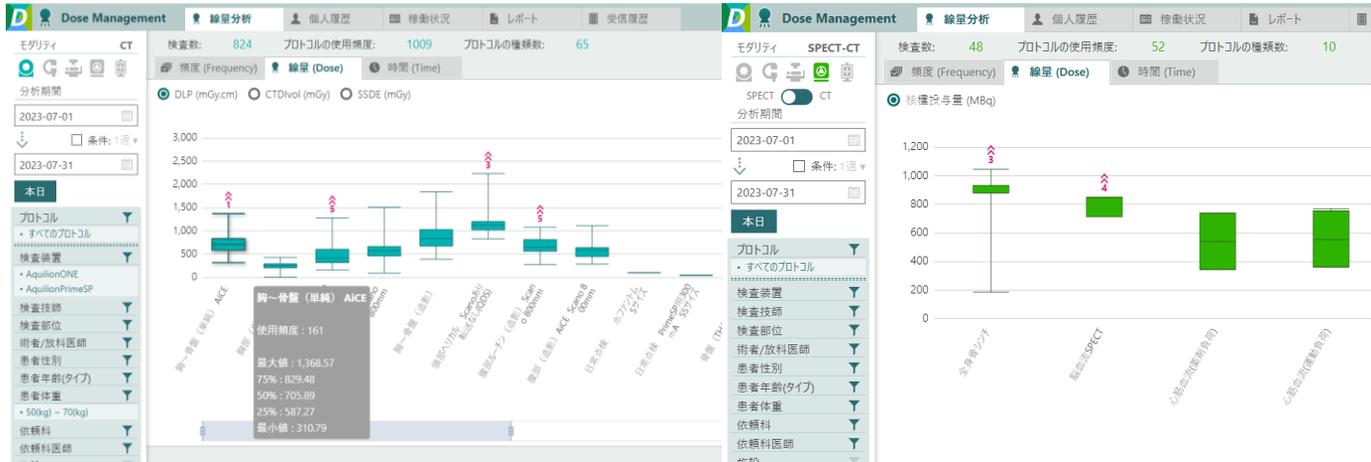
核医学検査時のCT撮影分の放射線被ばくが増えてしまいますが、通常のCT撮影の5～10分の1程度の放射線被ばくで済みますので、安心して検査をお受けください。放射線被ばくに関する疑問や質問などありましたら、担当の診療放射線技師にお尋ねください。(文責：馬場)

線量管理の義務化への対応

2020年4月より医療法施行規則が改正され、
線量の記録・管理が義務化しました。

これに伴い、当院でも2021年2月に

線量管理ワークステーション「Dose Xross」を導入しました。



モダリティ別や個人単位の線量を可視化し
容易に確認することが可能です。



国内の他施設との比較の目安となる

「診断参考レベル(DRLs)」を基に検査を行っています。

今後も検査で用いられる線量の低減・最適化に努めていきます。

(文責:川久保)